

近藤文化庁長官から表彰伝達

文化芸術創造都市部門

「青空29号」でお知らせしたように、本市は「文化芸術創造都市部門」で文化庁の長官表彰を受けました。近藤誠一文化庁長官(当時)が4月下旬、本市にお出でになり、副賞のトロフィー(佐渡出身の宮田亮平・東京芸術大学長が製作)と表彰状を伝達いただきました。

この分野の長官表彰は、いわば「クリエイティブ・シティ・オブ・ザ・イヤー」ともいえるもので、「田園文化都市」を目指す本市として大変に嬉しい授賞です。

近藤長官からは特に2日間の日程をいただき、りゅーとびあで「日本の再生と新潟への期待」と題した講演もお願いしました。長官は「文化芸術には人に感動を起こすと共に祈りや感謝の念を表す力があり、個人に生きる力と幸福を与え、コミュニケーション能力や連帯を強める力がある」と話されました。

文化芸術の持つ力として・経済効果(イノベーション能力、産業・地域振興、観光資源)①国を元気にする役割(ナショナルブランド、国際交流、ソフトパワー)・固定観念からの脱皮(ひらめき)②思想や価値観の伝達(先人の知恵の継承、伝統芸能・文化財)―などを例示されました。

長官からは「新潟のような創造都市がネットワークで結ばれ、大きな力を発揮することが日本の可能性を引き出す。今回の授賞をきっかけに、創造都市の大きな役割を新潟がさら



▲近藤誠一文化庁長官(右)から副賞を授与される篠田市長(りゅーとびあ能楽堂)

に果たすことを期待する」との励ましをいただきました。

長官には新潟の柳都文化や樽砵もご覧いただきました。食と花、踊り文化、マンガ・アニメなどさまざまな分野で活躍している市民とも意見交換してもらい、さらに本市の文化施設や文化資源もご視察いただくなど、大変に有益な表彰伝達となりました。

近藤長官はその後、三保の松原を含む富士山の世界文化遺産認定で大きな力を発揮されました。このことを多くの国民は忘れないでしょう。

青空

No.30



しのだ昭 後援会 あきらら会
2013年8月発行

▲「食育花育センター」を視察に訪れた林芳正・農水相(中央)に施設を説明する篠田昭市長。背後には鳥屋野潟が広がる(中央区清五郎)

盛大に「ゴルフ大会」と「湊の夕べ」

活動報告

あきらら会主催の「しのだ昭を囲むゴルフ大会」が6月29日、新潟市秋葉区の新津カントリークラブで開かれました。今回は120人が参加。暑い天気の下、さわやかな汗を流しました。

大会後は交流会を兼ねた表彰式が開かれ、お互いのプレーを振り返り、あちこちでゴルフ談義に花が咲いていました。

あきらら会の夏の恒例行事、「湊の夕べ」は7月28日、万代島「ぴあ万代」で開かれました。まだ梅雨の明けない天候不順の時期でしたが、この日は心地よい天候に恵まれ、110人が新潟の海と里の幸を味わいました。

これも例年通り、あきらら会会長の伊藤文吉・北方文化博物館館長から含蓄のある開会挨拶をいただき、篠田市長が最近の新潟市政の報告を兼ねた挨拶を述べました。乾杯の後、テーブルごとに親睦を深め、大いに盛り上がりました。

3期目仕上げへ エンジン全開

遅れた梅雨明けと局地的なゲリラ豪雨、そして猛暑が心配された今年の夏も終わろうとしています。11年目となる篠田市政は3期目の総仕上げに向けて重要な時期を迎えています。さまざまな成果を市民の皆さまにお届けすべく、私もサポーターの皆さんからいただいた力をエネルギーに変え、エンジンを全開にする覚悟です。

自公政権が打ち出した「国土強靱化」「防災減災ニューディール」政策は、新潟市がこれまで進めてきた「安心安全の土台強化」「日本海拠点都市の構築」と方向が合致しています。私たちはこの機を捉えて新潟を「防災首都」と位置づける取り組みを強化していきます。

これまで太田国交相や林農水相、麻生副総理・財務相らと意見交換すると共に、本州日本海側に欠けている機能の洗い出しを進めてきました。本州日本海側に石油精製機能が全くなり、LNG基地も新潟東港と直江津港にしかありません。この状況のまま、太平洋側で首都直下型や南海トラフなどの大災害が起きたら、日本全体が完全にマヒしてしまいます。早期に新潟を防災首都にしなければなりません。

一方で対岸のロシアと連携を強めることも新潟が防災首

都の役割を果たす上で重要です。極東開発に力を入れるプーチン政権の下、新潟とロシア極東の交流・連携はエネルギーや食料・農業連携などの可能性が広がっています。7月には沿海地方・ウラジオストクを訪問、新たな日ロ連携の道筋を探ってきました。新潟がエネルギーと食料・農業でロシアと結びつくことは、日本全体の強靱化にもつながります。

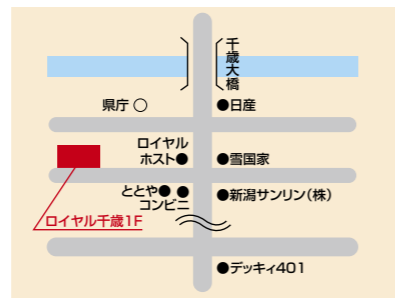
その問題意識を新潟県と共有し、「国家戦略特区」に手を挙げることにしました。この特区は4月に政府の産業競争力会議から提案され動き出したもので、規制改革や緩和で日本を活性化する狙いがあります。当初は3大都市圏中心といわれていましたが、私は日本を元気にするには地方からの視点が重要と考えています。新潟の特性を活かしてエネルギー、食料・農業、対岸の切り口で具体提案を県と練り上げたいと思っています。

3期目の仕上げに向けて大きな土台を強化すると共に、交流・活性化効果を引き出すべく、さまざまな機能の整備や強化にも力を注ぎます。これらについては2、3面で紹介しますのでご覧ください。今後もよろしくお願いいたします。

新潟市長 篠田 昭

しのだ昭 後援会
あきらら会
shinoda

〒950-0962
新潟市中央区出来島1丁目3番11号 ロイヤル千歳21・1F
TEL025-280-8808 FAX025-280-8810
http://www.shinoda-a.jp/ E-mail: info@shinoda-a.jp



お気軽に事務所へお立ち寄り下さい。広く会員を募集しています。

交流と活性化を加速

篠田市政3期目の仕上げに向けて、篠田市長が市民の皆さまにお約束した施設・機能が次々と誕生しています。中でも交流と活性化を加速させる点から大きな期待が掛けられているものが、5月から相次いでオープンしています。新潟にワクワク感をもたらす代表的な新施設を紹介します。



▲子どもたちで連日にぎわう「こども創造センター」。子どもたちの感性と創造力を育む施設だ(中央区清五郎)

〈マンガアニメ情報館〉

水島新司さんをはじめ赤塚不二夫、高橋留美子さんといった数多くの漫画家を輩出すると共に、「新潟アニメマンガ専門学校」などアニメ文化を牽引している新潟市を、マンガアニメの街としてさらにアピールしようと、新潟市では「マンガの家」(古町に2月開館)に続き、5月に「マンガ・アニメ情報館」を万代地区にオープンさせました。

情報館は、本市のマンガ・アニメ文化の振興と発進を目的とし、交流人口の増加を目指してエンターテインメント性も盛り込んでいます。開館時の「宇宙戦艦ヤマト2199展」を皮切りに、企画展も充実させてリピーターの獲得にも努めています。幸い、年間7万人の目標を上回るペースでにぎわっており、3カ月で2万人以上からおいでいただいています。

〈こども創造・動物ふれあいセンター〉

鳥屋野瀨南部の「食育花育センター」隣接地に5月25日、2つの施設がオープンしました。

その一つ、「動物ふれあいセンター」は昨年プレオープンしていた施設で、この日から本格オープンとなりました。家畜やイヌ・ネコに加え、子どもたちに大人気のアルパカやカピバラとふれ合えます。

新規お目見えなのが「こども創造センター」です。本市の豊かな自然を活かしながら、創作活動・体験活動に親しめる施設で、本市の里山に育った木をふんだんに使い感性を養う「木育センター」の意味合いを込めています。子どもたちを「木で育て」、「木を育てる」気持ちを育てていきます。

今までに新潟になかった施設であり、開館以来大勢の子どもたちや親子連れが楽しんでいます。8月8日には来館者が早くも10万人を突破しました。



▲新潟のマンガ・アニメ文化を発信する「マンガ・アニメ情報館」のオープニングであいさつする篠田市長(中央区八千代)

〈農業活性化研究センター〉

大農業都市・新潟の明日を拓く「農業活性化研究センター」は南区に6月28日開館しました。これまでの園芸センターの機能を引き継ぐと共に、6次産業化やマーケティングなど農業の付加価値を高める取り組みにもチャレンジします。

6次産業化には2次、3次産業分野との協働作業が欠かせませんので、これまで企業支援・起業支援で実績を挙げている新潟IPC財団と連携すると共に、新たに「食の技術コーディネーター」を任命しました。

同センターは鉄骨ハウスとパイプハウス18棟を備え、園芸センターではできなかったテーマに取り組むこととし、新形質米・低アミロース米を原料とした商品開発の推進などがラインアップされています。既に多くの農業者から相談や土壌診断の依頼があり、センター視察も既に600人ほどに上っています。

来春には同じ敷地に宿泊型農業体験施設「アグリパーク」が開設されます。この施設には「食品加工支援センター」が併設されますので、さらなる相乗効果が期待されます。

新施設 次々とオープン



▲さらに魅力アップした「新潟市水族館・マリンピア日本海」。大勢の来館者が見守る中、リニューアル・オープンのテープカット(中央が篠田市長)＝中央区西船見町



▲「園芸センター」の機能を引き継ぐだけでなく、6次産業化の司令塔ともなる「農業活性化研究センター」のハウスを見学する関係者たち(南区東笠巻新田)

〈マリンピアのリニューアルオープン〉

昨秋からお休みをいただいていた本市最大の誘客・交流施設「新潟市水族館・マリンピア日本海」は7月18日、全面リニューアルオープンしました。

新潟まつり さらなる盛り上げへ 3夜連続で花火 打ち上げ

今年の新潟まつりは3夜連続で花火を打ち上げました。昔の新潟は「川開き」で尺玉などが2日間、ふんだんに打ち上げられ、全国から花火好き・観光客が詰めかけました。この伝統は新潟まつりに引き継がれていますが、信濃川の川幅が狭くなったため、尺玉などが使えなくなりました。

しかし、花火を愛する心は脈々と市民に伝わっており、素晴らしい花火師が新潟花火の伝統を守っています。特に西蒲区で花火づくりを続けている新潟煙火工業は、東京・隅田川のスターメイン・コンクールで優勝し、「日本一」を自負する長岡花火の海外打ち上げなども務めています。

全国でトップクラスの花火師が本市で活躍していることをもっと大勢の市民に知ってもらうため、そして多彩な花火を多くの人から見てもらうため、祭り実行委員会と話し合い3夜連続で花火を打ち上げました。

初日は大民謡流しの後、萬代橋と八千代橋の間で素晴らしいオープニング・スターメイン。2日目は神輿の宮入の後、同じ場所で音楽付き花火ショーとして「光の旋律」を楽しんでもらいました。最終日は例年通り昭和



▲今年の新潟まつりは3夜連続で花火が打ち上げられた。写真は大民謡流しの後のスターメイン(中央区萬代橋)

大橋西詰めでの大花火大会です。

場所を2カ所にしたこともあって、花火協賛も例年以上に集まりました。新潟まつりの参加者も例年を15万人ほど上回る95万人を記録。熱い夏を盛り上げてくれました。来年は今回の課題を整理した上で、さらなる充実を図っていきます。